研究推進ニュースレター Vol. 8

東京未来大学
研究推進委員会発行
2018 年 8 月 31 日発行

ご挨拶

「心頭滅却すれば火も自ずから涼し」。武田氏滅亡後、織田信長は電光石火の勢いで甲斐を席巻し、信玄ゆかりの恵林寺焼き討ちを命じます。紅蓮の炎の中、快川国師は静かに、こう唱えて来世に旅立ったと伝えられています。それにしても、現代の衆生にはこの境地が、鵬程万里の果てにしかないことを、いやというほど思い知らされたひと夏でした。去りゆく平成最後の晩夏を惜しみつつ、最新号をお届けします。

2018 年度研究推進委員長　宅間雅哉

科研費ニュース

平成 30 年度東京未来大学の科研費採択状況（8 月 27 日現在）は以下の通りです。

	平成 30 年度		平成 29 年度	
	件数	金額（円）*1	件数	金額（円）*1
基盤研究（B）	1 件*2	3,500,000	1 件*2	3,500,000
基盤研究（C）	2 件	5,700,000	2 件	6,000,000
若手研究	3 件	5,300,000	1 件	2,300,000
挑戦的研究（萌芽）	1 件	4,300,000	0 件	0
研究活動スタート支援*3	1 件	2,300,000	0 件	0
合計	8 件	21,100,000	4 件	11,800,000

＊1：金額は直接経費　　＊2：H28 年度より継続　　＊3：内定

今年度、本学からは基盤研究（C）2 件、若手研究 3 件、平成 28 年度からの継続で基盤研究（B）1 件が採択され、さらに 8 月、挑戦的研究（萌芽）の採択 1 件と研究活動スタート支援の内定 1 件が加わりました。平成 29 年度と比較して、採択件数が倍増しました。来年度も、さらなる増加が期待されるところです。

平成 31 年度科研費のおおまかな公募スケジュールは以下の通りですが、学内期限等、詳細なスケジュールは日本学術振興会による公式発表後にお知らせする予定です。

＊公募開始：平成 30 年 9 月初旬　　＊学内期限：平成 30 年 10 月中旬　　＊提出期限：平成 30 年 11 月上旬

平成 30 年度研究推進研修会報告

7 月 11 日（水）、B-327 教室において、15 時 30 分より、2018（平成 30）年度研究推進研修会が開催されました。角山学長による開会の辞に続き、「効果的な科研費申請書類の書き方」をテーマに、採択実績をお持ちの藤後悦子教授、所澤潤教授にご講演いただき、活発な質疑応答が展開されました。

外部資金等公募情報　-学会以外の研究助成の紹介-

科研費以外にも、様々な団体からの研究助成があります。このページでは、そうした研究助成の募集情報を載せているサイトをご紹介します。この他、各学会の HP においても関連する研究助成の募集情報が掲載されていることがあります。先生方の研究に適した助成の検索に役立てていただきたいと思います。

1　公益財団法人 助成財団センター（The Japan Foundation center）

助成プログラム約 3,000 件を収録したデータベースがあります。事業形態や事業分野、募集時期による検索、キーワード（フリーワード）による検索が可能です。

（公益財団法人 助成財団センター　http://www.jfc.or.jp/）

2　GRANT SQUARE

300 以上に細分化された研究分野から、研究助成を検索することができます。「採択実績から探す」という機能では、特定のキーワードを含む採択実績からその研究課題が採択されやすい研究助成を探すことも可能です。

（GRANT SQUARE　http://info-innovation.jp/）

3　コラボリー／Grants（研究助成）

国、地方自治体、民間助成団体の公募情報が検索できます。また、各助成プログラムが過去にどのような研究課題を採択したかがわかる採択実績も提供されています。

（コラボリー／Grants（研究助成）　https://www.colabory.com/grants/）

※ 上記各サイトの利用規約を事前にご確認の上、ご利用ください。

4　その他の研究助成募集情報

4.1　公益財団法人 博報児童教育振興会（博報財団）:「ことばの教育」に関する研究、及び児童教育実践の質を向上させる研究が助成対象

- 応募受付締切：2018 年 10 月 31 日（水）
- 募集要項等、詳細は上記財団ホームページ（https://www.hakuhofoundation.or.jp/subsidy/）へ

4.2　公益財団法人 平和中島財団：国際学術共同研究、及びアジア地域重点学術研究が助成対象

- 応募受付締切：2018 年 10 月 31 日（水）
- 募集要項・申込書類等は上記財団ホームページ（http://www.hnf.jp/josei/）へ

東京未来大学の紀要等紹介

東京未来大学には紀要をはじめ、研究成果を発表する論文集が複数あります。参考のため、平成 30 年度のスケジュールを以下に記載します。研究成果発表の場としてご活用ください。

1「東京未来大学研究紀要」第 13 号（平成 31 年 3 月発行予定）

- 申し込み締切：平成 30 年 7 月 21 日（金）
- 原稿提出期限：平成 30 年 9 月 15 日（金）

2「モチベーション研究」第 8 号（平成 31 年 3 月発行予定）

- 申し込み締切：なし（随時受け付け）
- 原稿提出期限：平成 30 年 11 月 30 日（金）

3「未来の保育と教育－東京未来大学保育・教職センター紀要」第 6 号（平成 31 年 9 月発行予定）

- 申し込み締切：平成 30 年 12 月 14 日（金）
- 原稿提出期限：平成 31 年 3 月 15 日（金）

4「教育改善向上（FD）年報」第 4 号（平成 31 年 3 月発行予定）

- 申し込み締切、原稿提出期限：未定

研究紹介

東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介いたします。今回は、科学研究費の若手研究に採択された埴田健司先生にお話を伺いました。

Ｑ１ 埴田先生、採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

今回科研に採択された研究テーマは「風評被害の維持・抑止に関わる心的メカニズムの検討」です。研究で取り上げるのは、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染が確認された福島県をはじめとする地域の食品に対する風評被害です。事故から 7 年以上が経過し、安全性の検査など対策も様々に行われていますが、風評被害が収束したとは言い難いのが現状だと思います。なぜ風評被害が続いているのか。どのようにすればそれを収束に向かわせることができるのか。今回の研究ではこうしたことについて、非意識的な心理過程や、進化的に獲得されたと考えられている心理的適応のメカニズムに着目した検討を計画しています。非意識的な心理過程については、社会心理学の潜在的認知研究の視点から、福島に対する潜在的態度が購買行動に及ぼす影響や、潜在的態度の変容を検討する予定です。心理的適応メカニズムとしては、行動免疫システムと呼ばれる病気を回避するために備わっている心理的機能に着目して、風評被害との関連を検討していこうと考えています。

研究手法としては実験をメインに考えています。実験室での実験はもとより、調査会社にモニタ登録している方々を対象として、インターネット上で実施する実験も計画しています。放射能汚染地域の食品に対するより現実的な消費行動を捉えられるのではないかと考えています。こうした実験を実施するには、実験課題を制御し、参加者の反応をとるためのプログラミングが必要になりますし、調査会社の協力も不可欠になります。実験室実験での実験者や参加者への謝礼も発生します。科研費の使い道としてはこれらが中心となります。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたって苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

代表研究者として科研に採択されたのは今回が初めてです。これまでにも申請はしていましたが、結果は残念ながら…でした。今回の若手研究の科研申請書フォーマットはこれまでのものから少し変わって、研究目的と方法を書ける部分は以前よりも少なくなっていたと思います。具体的に書きすぎてしまうと書ききれなくなると思い、細かいことは捨て、研究の核となることを書くように心がけました。今思うとですが。大学院生時代に研究計画段階の相談をするとき、指導教員から「細かいことに気をとられすぎ」「研究の根幹や先に見据えるものが見えない」とよく言われていました。過去の採択されなかった科研申請書を見返すと、指導教員の言葉が耳に痛い感じがします。目的と方法に割ける分量が少なくなっていたことが、私にはプラスに働いたのかもしれません。図表を入れたり、重要なところに下線を引いたりするとよいと聞いたことがありましたが、今回の申請ではいずれもしませんでした。「図表などを用いて」という指示もありませんでしたし、直球勝負のような感覚で、本文に含めるべき(1)～(3)をプレーンテキストで書いたつもりです。結局のところは何が良かったのかはわかりませんので、今後申請書を書くときには試行錯誤することになると思います…。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

今回の研究は 3 年間の期間で申請していて、今年度はその 1 年目です。現在はまだ研究の準備を進めている段階で、特に実験を実施できる環境づくりを進めています。実験データをとるところまでは至っていませんが、夏休み期間中に準備を進めて、今年度中には実験を数回実施できるようにしていきたいと考えています。

今後の展望ですが、まずは今回計画している研究を着実に進め、3 年の期間中に成果を示せるようにしていくことを第一と考えています。私の研究関心は、人の日常的な判断・行動の背後にある非意識的な心理過程にあります。今回の研究もこれに関連するものですが、今後も非意識のこころの働きについて研究を展開していきたいと思います。

研究紹介

東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介いたします。今回は、科学研究費の若手研究に採択された泉秀生先生にお話を伺いました。

Ｑ１ 泉先生、採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

この度、採択していただいた研究のテーマは「幼児の生活時間に与える保護者の意識と知恵に関する研究」です。最近の日本では夜９時を過ぎても、コンビニやファミレス、居酒屋といった商業施設や街中で、まだ幼い子どもを連れた家族をよく目にするようになりました。核家族化や共働き世帯が増えたため、子どもたちの生活も大人の生活に引っ張られる形で夜型化してきていて、本来あるべき、子どもたちの健康的な生活のリズムが乱れてしまっています。子どもたちが慢性的な睡眠不足となり、そのため、日中、人とのかかわりやあそびに積極的に取り組めなくなり、お腹も空かないので食事も十分に食べなくなることが予想され、心と体の貧しい子どもたちが増えていくのではないかと心配しています。

このような背景のもと、本研究では、幼児期の子どもを育てる保護者に対して、幼児にとって理論的に正しく健康的な生活時間に関する知識と、それらを実行するための生活上の工夫・知恵を伝えることによって、子どもたちの生活が規則正しくなるかどうかを、検証したいと考えています。知らず知らずのうちに、わが子に不健康な生活を提供してしまっている親の助けになり、ひいては、子どもたちの健やかな成長を目指しています。

助成金の主な使い道としては、アンケート調査の実施のための諸経費や、得られた成果を発表するための学会への参加費、論文の投稿費とともに、研究に協力してくださる家族への謝礼に充てるつもりです。

平成 30 年度にアンケート用紙の作成と実態調査の実施、平成 31 年度にデータのまとめ、および、介入研究の実施、平成 32 年に調査・研究のまとめをする計画です。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたって苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

今回、初めて採択していただいた内容として、これまでの研究計画書と大きく変更した点は、介入研究を組み込んだことです。これまで、私の研究は量的研究であるために、「広域にアンケート調査をして、子どもの生活習慣の実態と問題点を見いだし、その改善策を考える」という主旨でしたが、今回は、その部分は大学からいただいた研究費で実施してきましたので、「子どもの生活が乱れていることは把握してきたので、科研費の研究では、それらの改善策を調べ、その方策を使って介入研究をします」と記載しました。

調査だけではなく、それで得られた効果の測定までする、というのが審査員の先生方に良い印象をもっていただけたのではないかと、思っています。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

まったくもって、進んでいません。（笑）

正直に言いますと、頭の中では色々な構想は練られているのですが、実行動には移せていません。ただ、これから夏季休暇になりますので、頭の中の構想を、形にしていきたいと思います。

今回の研究で、予想通りの成果が得られたとしても、想定外の成果が得られたとしても、ともに、今後の本研究分野の発展に寄与するものだと考えています。現在の子どもたちを育てる日本社会の問題点や、その改善点などを見つけることで、子どもを取り巻く園や家族だけでなく、子育て世帯を抱える、地域、企業、社会全体に、現在の問題を発信し、老若男女問わず、みんなで、わが国の宝である子どものことを考える機会となるような、メッセージを含んだ研究成果を得たいと考えています。

編集後記

今年度の研究推進委員会は、前年度比で委員１名の減少となりました。さらに「研究推進ニュースレター」の編集経験者はゼロという現実が…。各委員の業務負担量が増える中、編集担当２名は手探りの連続となったため、原稿の執筆依頼、関係部署への問い合わせ等が例年よりも遅くなりました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。